

履修の流れ

「必修科目」3科目6単位と「選択必修科目」1科目2単位以上を修得し、所属する学科の修了要件を満たすことで、副専攻の修了が認められます。副専攻修了者には、履修したコースに応じてそれぞれ「近江楽士（コミュニティ・ネットワーク者：CN）」または「近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー：SE）」の称号が授与されます。在学中には修了見込証明書を発行しますので、就職活動で活用出来ます。



就活などで
自分をアピール

近江楽士（地域学）副専攻カリキュラム

科目名称	必修・選択必修	配当年次	単位数	備考
地域診断法	必修 (CN)	1後	2	
システム思考法	必修 (CN)	2前	2	
問題解決デザイン論	必修 (CN)	2後	2	地域行動論読み替え科目
地域社会とキャリア創生	必修 (SE)	2前	2	
経営学序論	必修 (SE)	2後	2	
地域中小企業講座	必修 (SE)	3前	2	
地域デザイン A	選択必修 (CN推奨)	2-4 前	2	地域再生システム論読み替え科目
地域デザイン B	選択必修 (CN推奨)	2-4 前	2	地域実践学Ⅰ読み替え科目
地域デザイン C	選択必修 (SE推奨)	2-4 後	2	地域実践学Ⅱ読み替え科目
地域デザイン D	選択必修 (SE推奨)	2-4 後	2	

- ・平成28年度入学生から適用されるカリキュラムを紹介しています。
- ・平成27年度以前の入学者は、入学時のカリキュラムが適用されますが、ソーシャル・アントレプレナーコースの履修は可能です。
- ・備考の読替については、平成26年度以前入学者が対象です。
- ・履修を希望する者は履修申請書を学生支援センター（教務担当）に提出してください。

全学部・全学科対象

ネットワーク力・起業力育成プログラム



近江楽士 （地域学）副専攻



滋賀県立大学
THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

近江楽士（地域学）副専攻って？

全学・全学科対象の未来志向の学びプログラム！

これからの社会に必要な“ネットワーク力・起業力”を養います。

「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」という滋賀県立大学のモットーから生まれた「実践できる人材」育成プログラムです。実社会に必要な様々なノウハウを地域から学び、主体的に考え、行動し、課題を解決するための学びを提供します。「地域教育プログラム」で地域との連携実績の豊富な滋賀県立大学ならではの「地域に学ぶ」機会を通じて、一人ひとりの知と実践力の向上を目指します。

近江楽士（地域学）副専攻は、専門領域を超えて、更に自身の能力を高めた未来志向の学生を対象に、全学部全学科生が受講可能です。近江楽士（地域学）副専攻を修了し、所属学部の卒業要件を満たすことで「近江楽士（コミュニティ・ネットワーク者）」と「近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー）」の称号が付与されます。この称号は、企業等へのインターンシップ活動や就職活動に活用することで、大学時代の実績としてPRすることが出来ます！

「地域に学ぶ」
「実践的に修得する」
近江楽士を育む
キャンパスライフ



地域活動で必要になる
コーディネーター力を育成！

学生による地域活動プロジェクト「近江楽座」との連携など、実際に地域に入って地域活動に必要な企画、マネジメント、情報発信などのスキルを実践的に修得します。



地域で活躍する大人から
社会での立ち回り方を学ぶ！

地域で活動する多様な主体との連携・協働を図ります。プロジェクトを推進するために求められる行動の具体的なケースの調査・分析を通じ、その手法を考察します。



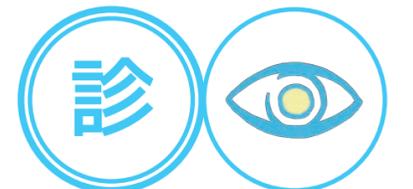
いろいろな人との対話で
コミュニケーション力を育成！

今まさに地域で活動する様々な個人や団体、行政などと直接対話する機会を通じて、地域でのコミュニケーションスキルを学ぶとともに、ネットワーク力を養います。



地域活性って一体何？
そんな疑問を解決！

地域再生や地域活性化の理念や意義、事例を学びます。また、現場での授業を通して、地域の課題解決について案を検討・提案し、起業力を養います。



地域を診断できれば
キミも町づくりの専門家！

複雑な要因が絡みあう「地域」を多面的に「診る」手法を学び、地域住民とのコミュニケーションや合意形成、価値の共有を実践的に修得していきます。

お問い合わせ

公立大学法人
滋賀県立大学 地域共生センター
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
URL: <http://ccdp.usp.ac.jp/>

TEL : 0749-28-9851 FAX : 0749-28-0220
E-mail : omigakushi@office.usp.ac.jp



はじめよう

ここにはない価値の創造を



自分の知らない世界で活躍する
大人たちの生き様との出会いが
新しい将来への目標を与えてくれた。



きっかけ

コミュニケーション能力を高めたい

部活をやめて時間ができた

おすすめの授業

地域行動論 ※1

→自分の知らない社会を知るいい機会！

近江楽士(地域学)副専攻1期生
環境科学部 環境建築デザイン学科卒業
2015年4月から滋賀県庁で活躍

新谷 友



こんな人にオススメ！！

時間的な
余裕がある

専攻の
違う学生と
学びたい

視野を
広げたい

建築家になりたいという漠然とした夢を持って大学に入学した新谷さん。町づくりへの興味が生まれたきっかけは、「地元多賀町のお祭りを運営する立場で参加したこと。」

町を元気にしたいという思いで祭りに関わっている人があるように、地域には様々な立場の人がいることを実感し、自分の視野の狭さを知った

と言います。新谷さんが近江楽士を選んだのは、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力を向上させたいという思いからでした。はからずもそこで得られたものは、様々な立場で地域に関わっている社会人との出会いと、専攻や学科を超えて志を同じくする学生同士との横のつながり。

「様々な立場の人が関わって成り立つ地域だから、地域課題の解決のためにも人と人のつながりの大切さを実感した。そして、地域活動での経験を活かし、様々なシーンで地域に貢献できる行政の仕事をしたいと思うようになった。」

そう話す新谷さんは、地域学副専攻の初めての修士生となり、現在は、滋賀県職員として活躍しています。

ぼくたちの未来予想図

地域で活動すること、
初めて会う人との交流は、
常に新しい発見を与えてくれます！



きっかけ

大学でなにか始めたかった

フィールドワークが面白そう

おすすめの授業

地域診断法

→地域の特性を論理的に把握出来る！

近江楽士(地域学)副専攻4期生

人間文化学部 人間関係学科

生野 聖美



こんな人にオススメ！！

何か新しく
始めてみたい

学外で
活動したい

地域のことを
知りたい

「仕事を通して誰かの役に立ちたい」と話す生野さん。中学校の職業体験の際に介護士の仕事ぶりを見て、福祉の仕事に興味を抱くように。大学は、福祉の仕事をしていく上で人の心理について学びたいと考え専攻を決めました。

「はじめはおもしろそうと言う程度の軽い気持ちでしたが、論理的に地域の事を読み解いていくのが楽し

くなる環境があり、様々なひとが集まってきたのに、学科で学びが完結してしまっている事を残念に感じていたと言います。そこで、何か始めたいと思っていた時に、学外での活動も出来る近江楽士を知りました。

「はじめはおもしろそうと言う程度の軽い気持ちでしたが、論理的に地域の事を読み解いていくのが楽し

※1：平成28年度から「問題解決デザイン論」として開講

近江楽士を専攻したことで
思いもなかったネットワークが出来た。
それを深めながら滋賀で活動を続けたい。

近江楽士(地域学)副専攻2期生
2017年 人間文化学部
国際コミュニケーション学科 卒業
村尾 友香



きっかけ

この大学でしか出来ないことがしたい

学外で活動がしたい

おすすめの授業

地域再生システム論 ※2

→地域で活動するための人脈ができた！



こんな人にオススメ！！

滋賀でしか
出来ないこと
がしたい

人と
違うことが
したい

常に
新しい挑戦が
したい

「まち歩き」って何？特別「まちづくり」に興味があったわけではないという村尾さんですが、今ではまち歩きのファシリテートなども任せられるなど、地域に根ざして活動をしています。

元々大阪出身で、中学の頃からの憧れだった通訳ガイドを目標に、国際コミュニケーション学科を専攻した村尾さん。近江楽士を知るきっかけになったのは入学式の説明会でし

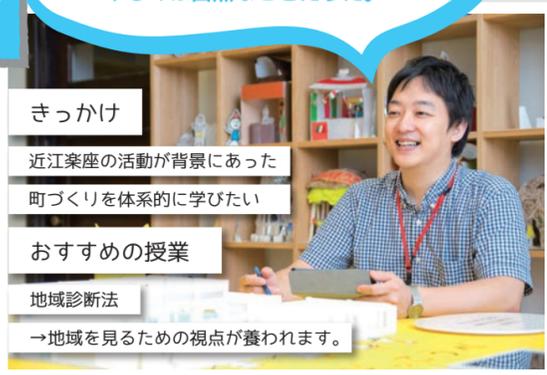
た。「その時、その場所でしか出来ないことに挑戦する」が自身のモットーで、学科の授業にはない他学科の学生と共に学べる環境や学外での活動に面白みを感じ、近江楽士を専攻することに。

実際に受講してみて、「地域の人と一緒に受講する学生との交流の中で生まれる対話から考えや価値を生み出していくことが新鮮で面白い」と想像以上の学びと出会いが待ってい

ました。「近江楽士を専攻していなかったらどうなっていただろう」と村尾さん、これまで支えてくれた滋賀の人のネットワークを活かして卒業後も滋賀で活動がしたいと考えようになったと言います。「地域では多くの方の支えがあって活動することができた。今後は地域の魅力を発信し、支えになるような立場になっていきたい」。近江楽士をきっかけに、新しい自分の未来を描いています。

地域で活動する実践的なフィールドがあったから、副専攻(近江環人)を専攻するのは自然なことだった。

近江環人地域再生学座 修了
2010年 大学院環境科学研究科環境計画学専攻 卒業
勤務先：KIITO/デザイン・クリエイティブセンター神戸
中野 優



きっかけ

近江楽士の活動が背景にあった

町づくりを体系的に学びたい

おすすめの授業

地域診断法

→地域を見るための視点が養われます。



こんな人にオススメ！！

近江楽士
をしている

町づくり
を仕事に
したい

地域活動
をしている

「社会問題に対しアクションを起こせるプロフェッショナルになる。」そう話すのは、近江楽士の上位カリキュラムである「大学院副専攻近江環人地域再生学座」を卒業した中野優さん。建築学を専攻していましたが、新しいものを作ることよりも、今あるものを活用し、新しい価値をどう付与していくのかということに強い興味があったと言います。そこで、古民家改修などによる地域活性化を目的

とした、近江楽士採択プロジェクトの「とよさと快蔵プロジェクト」に立ち上げ初期から関わりました。近江楽士の活動を通して、地域の方とのコミュニケーションやプロジェクトの運営の仕方を学べたが、町づくりの専門家としての知識やノウハウを体系的に学びたいという思いから、大学院への進学と近江環人の履修を決めたそうです。

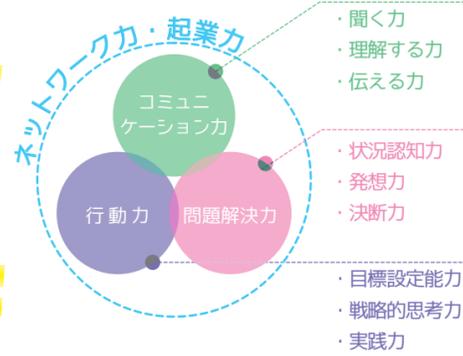
「近江楽士という、実践的に町づくりに関われるフィールドでの経験の上に、町づくりの専門的な学習の場としての近江環人を受講することで、地域を取り巻く環境を見るための多種多様な視点が養われ、それがいまの仕事にも生きていくと思う。」

中野さんはいま、神戸市の地域課題の解決を目的に、多様な主体が関われる交流の場づくりと、そこで出たアイデアを事業化していくコーディネーターとして活躍しています。

なにが
学べるの？

自分だけの道を切り拓く
ネットワーク力・起業力

いろんな思いや立場の人が絡み合う社会や地域の問題解決には、ひとつの専門分野の知識だけではままならないことがあります。そんなときに社会の様々なシーンで必要とされているのが、「ネットワーク力」や「起業力」！地域学副専攻では2つの力を、体系的に学ぶ座学と、実践的に創造していくフィールドワークによって身につけていくことが出来るのです。



コース別	育成人材イメージ	付与される称号
CN コミュニティ・ネットワークコース	・地域を客観的に分析し、人材や資源を結び合わせて地域再生に向けた取り組みをデザインする人材。 ・行政やNPO、市民活動等の分野でリーダーシップを発揮する人材。	近江楽士 (コミュニティ・ネットワーク)
SE ソーシャル・アントレプレナーコース	・コミュニティ・ビジネスの発想と手法によって地域課題を解決に導く起業家的人材。 ・起業家精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する人材	近江楽士 (ソーシャル・アントレプレナー)



“地域人”から見た“近江楽士”



先輩の声

近江楽士の学びを支える地域人

近江楽士の大きな特徴に、“地域人”によるサポートがあります。“地域人”とは自治体や企業、NPO、自治会など様々な形で地域活動に取り組むネットワークのことで、教員とともに、学生の学びのプロセスをサポートしていただきます。



企業人としての地域人から見た近江楽士のメリット

・今の学生が考えていることへの理解に繋がる
・学生の能力と企業が期待する能力とのギャップを把握することが出来る
・就職活動ではない場所で本当の学生の姿を見ることが出来る。



就職活動では見ることの出来ないリアルな学生の姿が見られる。採用の重要な参考資料に。

※2：平成28年度から「地域デザインA」として開講